

八王子で安心してくらししていくために2017

～八王子が取り組む見守り活動大発表会～ 《開催報告》



開催日時：2018年 1月18日（木）13:30～15:30
開催会場：八王子労政会館 ホール
参加人数：69名（事務局含む）
参加生協：コープみらい、パルシステム東京、東都生協、自然派
くらぶ生協、八王子保健生協、東京都生協連
主催：八王子市まちづくり 生協の支え合いネットワーク

「八王子で安心してくらししていくために」をテーマに、今年度も学習会を開催しました。6年目となる今回は、各生協が取り組んでいる見守り活動について共有し合い、行政や市民のみなさんに知っていただく大発表会としました。

13:30 開会、あいさつ
13:35 各生協の取り組みの報告
14:35 講評
15:25 アンケート記入
15:30 閉会



司会：藤本美香さん
（自然派くらぶ生協）

八王子で今何が起きているかを知り、見守りについてみんな考えていきましょう。

あいさつ：秋山純
（東京都生協連専務理事）



各生協の取り組みの報告

コープみらい：誰からも頼られる生協へ 林 竜樹さん（コープデリ八王子センター長）

●見守りの取り組みとして…

- ・お届け確認メールサービス→配達にお伺いした情報を、離れて暮らすご親族などにメールでお知らせ
- ・緊急時行動手順→商品の取り残しや「いつもと違う」状況の時の行動手順
- ・第2連絡先登録→緊急時に連絡が取れるご家族・親族等の連絡先登録（任意）
- ・行政との連携→各自治体との見守り協定に添った連携
⇒システムや手順は様々あるが、やはり欠かせないのは「人（配達担当者）」

◎担当者の「いつもと違う」「何か変」というちょっとした気づきで地域に貢献できることも



パルシステム東京：パルシステムの見守り安心サービス 吉沢 智さん（八王子センター活動長）

●見守り安心サービス＝パルシステム定期便の特性を活かし、組合員へのサービス拡充と地域貢献への一助を担うことを目的として、離れて暮らす親族を対象に実施。

- ・安心メールサービス→定期便でお伺いした際の基本情報を予めご指定の登録先（親族等）へ定期的に自動メール配信を行い、離れて暮らす組合員の親族に安心を提供する
- ・緊急通報サービス→配送中に担当者が緊急と判断または何らかの異変を察知した時に連絡受取者（親族等）、各行政区の見守り協定の内容に沿って窓口へ連絡（必要に応じて警察・救急）する

●見守り安心サービス運用“以外”の緊急通用のケースとは、「各地域担当者より、現場での有事を察した場合は、まずはセンターへ一報入れることを意識！」

八王子センターの
共通認識！



東都生協：八王子センターの見守り活動報告 本間 一生さん（八王子センター長）

●見守り活動取り組み実施内容

- ・毎週の配達時のコミュニケーション→あいさつ、お届け時の健康状態、ケア等
- ・異常を感じた場合の対応→配達後の電話入れ、担当が緊急性が必要と判断した場合のセンター連携、必要に応じて地域包括支援センターとの連携

●今後も大切にしていくこと

- ・ひとりひとりの組合員を大切にし、しっかり向き合う
- ・自分たちが、多くの組合員のライフラインになっているという自覚を持って業務に当たる
- ・地域のみなさんと連携しながら頼りにされる存在になる



自然派くらぶ生協：生協と組合員のつながりづくり

山本 眞一郎さん(専務理事)

～配送・電話対応・組合員活動の場で～

- 組合員の平均年齢が高めということもあり、「見守りをしてほしい」との声が出されていた。
- 配送スタッフの情報をオープンにし、信頼と安心感に繋げる。→「配送男子」として紹介。
- 配送中のチェック項目を独自に決め、見守りをスタートさせたばかり。
- 組合員とのつながりづくり→注文の再確認を電話でおこない、電話対応時に異変をキャッチ。様々な組合員活動、社会参加の場を提供。子育て世代、シニア世代もいきいき活躍。



八王子保健生協：今すぐできること

今泉 靖徳さん

～孤独死に向き合う地域の現場から～

(八王子シルバーふらっと相談室前室長)

- 平成23年5月に館が丘団地内商店街空き店舗を活用して、高齢者のよろず相談窓口を開設。相談室内にコミュニティカフェ(通称：ふらっとカフェ)を併設して法政大学の学生ボランティアと共に運営に携わっていた。平成26年2月～平成29年8月に団地内で起きた孤独死の件数は23件。うち、14件は相談室が第1発見者だった。孤独死の8割が男性で、中には50代の男性も。しかし、ギリギリの状況で発見され、助かった方もいる。異変に気付いたのは生協を含む配食系サービスや隣人等。ひとりひとりがほんの少し意識を変えることで救える命はたくさんある。「ゆるやかな見守り」は大事!⇒「私たちがつながれば必ず見える景色が変わる。できっこないをやろう!」



講評



臼井 弘文さん(八王子市福祉部高齢者福祉課課長補佐)

見守り協定事業は平成22年5月に新聞販売同業組合との協定締結が最初。平成25年度に協定事業者の拡充を図り、現在は27者と協定を締結している。また、高齢者見守りシール事業を平成29年度よりスタート。認知症サポーターには3万人が登録していてフォローアップ研修を計画中。2025年を目途に、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していく。「市民力・地域力」の発揮!

藤岡 一昭さん(八王子自治研究センター理事長)

地域社会・政策を考えていくときに必要なことは「事例」である。お互いに「事例」をしっかりと共有化していくことが大切。生協の見守りの取り組みは「まちづくり」に直結していると感じた。八王子市にはまだ見守り条例がないので、生協に関する基本条例をつくって推進していけるとよい。「市民自治」に参画しよう。

秋山 純(東京都生協連専務理事)

生協の見守りネットワークの網からこぼれそうな人たちにどう接していくかが課題。高齢者だけではなく、子ども、障がい者、若い世代の見守りなど、生協で見えない人たちへの対応をどうするか考えていかななくてはいけない。生協だけでは見守りはできない。



進行：齋藤健一さん

- ◎生協どうしてもっとつながりあいましょう!
- ◎市民として何が出来るか考え、出来ることからひとつずつ始めましょう!
- ◎参加対象を広げて、発表会第2弾を是非やりましょう!

★★★ アンケートより ★★★

- ・生協だけでなく、つながりの発展、市(行政)の踏み込みなど市民も力を出し合うにはどうしていくべきか、何が出来るか考えていく場が必要と感じた。
- ・八王子市民として八王子市内での取り組みや現状を知ることが出来、とても勉強になる報告会でした。生協の一組合員としても出来ること、これから取り組めること、早速アクションしていきたいと思えます。
- ・この会をきっかけにさらに行政と事業者、また事業者どうしの情報交換がすずめばいいと思う。
- ・今泉さんの報告から孤独死の現場について知ることができました。死につながる前に見守り活動で防ぐことがとても重要であると思えます。本来であれば隣近所の力が一番かもしれませんが、それが難しい今は生協がその代わりになればいいと思えます。
- ・「私たちがつながれば見える景色が変わる。」今泉さんの言葉がとても心に残りました。生協どうしてつながって、高齢化が進んでも明るい未来を見たいですね。

